

「中学校体育連盟功労賞を受賞して」

八代市立第五中学校 校長 野間幸嗣



今回、中学校体育連盟功労賞を私のようなさほど実績のないものが受賞させて頂いて、本当に恐縮・感謝しております。

私の教師としてのスタートは、昭和58年旧鹿本郡鹿央町立千田小学校に新採として赴任し、教師としての基礎を鹿本の地で学ばせていただきました。

また、赴任と同時に、玉名教員ソフトボールチームに所属させていただき、全国教員大会では監督兼プレイヤーとして3位に入賞することができました。当時の先輩方から「県大会・九州大会・全国大会に学校を休んで気持ちよく出させてもらうためには、普段の学校での仕事を100%責任持ってやり遂げること、仕事の出来ないものがソフトボールは上手にならない」ということを徹底的にたたき込まれました。40歳を過ぎてからは、玉名市ソフトボール選抜チームで県民体育祭にも参加することができ、10年間で3度の優勝を経験させていただきました。職種の違いの集まるチームの中でネットワークが広がり、大きな財産となりました。

中学校体育教師としてのスタートは、荒尾市立荒尾第二中学校でした。専門外のバスケット部を担当することになり、やんちゃな生徒に振り回されながらも何とか指導することができるようになりました。当時、バスケット初心者の私にノウハウを親切に教えていただいた、昨年中学校体育連盟功労賞を受賞された、永尾先生、海陽中校長の寺尾先生には大変お世話になりました。

専門の野球に携わったのは、玉名有明中の7年間でした。「生活習慣の中に野球がある」「うまくなりたかったら生活態度を良くすること」と、控え選手の気持ちを大切にされた指導を心がけました。また、短時間で効果を上げる練習方法を確立させ、効果を上げることが出来ました。当時の強豪校の中でも一番練習時間が短く、休みの多いチームではなかったかと自負しています。

陸上競技の走り高跳びの指導においては、素質のある陸上部以外の選手に恵まれ、九州大会・全国大会に数多く連れて行っていただきました。ご存じのとおり、走り高跳びは、一つの高さに3回挑戦することが出来ます。選手たちには「その高さの3本の試技の一つずつドラマがある」2本目を失敗したときに「あと1本しかない」と思えるか「あと1本チャレンジできる」と思えるかなど、3本の試技に多くのドラマがあり、その主人公になるように話してきました。素人だった私を指導していただいた、牛深東中の池田先生や開新高校の中村先生には感謝の気持ちで一杯です。

このように野球やバスケット、陸上競技の指導に携わることが出来たのは、素晴らしい生徒や保護者、指導者との出会いに恵まれたからだと思います。感謝の一言に尽きます。

最後になりましたが、熊本県中学校体育研究会・熊本県中学校体育連盟のますますの発展と会員の先生方のご活躍を祈念するとともに、長年にわたりご指導いただきました多くの先生方に感謝を申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。